

<b>K 科目名</b> Course Name	ピアノ演奏法 I Piano performance method I			<b>ナンバリング</b> No.	K1-011		
<b>年次</b>	1年	<b>期別</b>	前期	<b>単位数</b>	1	<b>授業形態</b>	演習
<b>担当者氏名</b>	岡泉 志のぶ、川田 将人、中沢 充恵、川島 麻祐未						
<b>連絡方法</b>	C-Learning で対応。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
<b>必修/選択</b>	選択(保育士養成課程選択必修)						
<b>関連 DP</b>	DP2, DP4, DP5						
<b>授業の概要と到達目標</b>	<p>子どもの幼児期の成長過程における音楽教育は非常に重要であり、多くの保育園、幼稚園で音楽は生活全般に取り入れられている。この授業では、保育の現場に必要な基礎的なピアノ奏法、テクニック、伴奏法の習得を目標として、ピアノ未経験者や初心者もバイエル教則本を使用し、それぞれのレベルに合わせた指導を個人レッスン形式で行う。また個々の進度に合わせた課題を与えることにより、子ども達に音楽的な表現を豊かにする指導が出来るようになるためのピアノ基礎技術の習得を図る。</p> <p>この授業の到達目標は以下4つである。</p> <p>①保育現場にピアノ技術は必須であるという意識を持ち、ピアノの練習を習慣化できるようにする。                  ②音楽に関心を持ち、ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようにする。                  ③音楽の基礎理論(音符や休符、リズム、拍子など)を覚えて、幼児曲を伴奏できるようにする。                  ④授業内容に沿って、バイエル教則本 70 番台の曲を終了できるようにする。</p>						
<b>授業の方法</b>	<p>演習(実技)科目であり、個別指導を基本として個人レッスン形式で行う。初心者クラスの学生(事前調査により判断、入れ替えあり)は個人レッスンに加えて楽典講座を受講する。授業では各学生の能力に応じた教材や進度を的確に判断し、グループ演奏発表及び動画提出も含め個々に適した以下の授業内容と方法で進めることとする。</p> <p>以下には標準的(ピアノ未経験者、初心者に適した)授業計画を示す。</p>						
<b>学習成果</b>	L01	ピアノ練習の習慣化を身につけ、ピアノを弾くことの楽しさや達成感を得ることができる。					
	L02						
	L03	ピアノの基本である読譜力をつけることができる。基本的な伴奏法を用いた簡単な幼児曲の伴奏や他の楽曲を演奏することができる。					
	L04						
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>個々の学生のレベルに応じて課した技術的課題について、毎回授業内でフィードバックする。発表については、終了時と最終授業日に講評する。</p>						
<b>教科書/参考図書</b>	<p>テキスト:全訳バイエル教則本(全音楽譜出版社)、ブルグミュラー25の練習曲(全音楽譜出版社)、ソナチネアルバム(全音楽譜出版社)、ソナタアルバム(全音楽譜出版社)、他</p> <p>C-Learning: 楽曲解説、解説動画、ドリル</p>						
<b>履修上の留意点やルール等</b>	<p>●短い時間でも毎日ピアノに触れ、練習すること。●使用教室への飲食持ち込みは禁止とする。                  ●事前、事後学習に費やす時間は45分とする。</p>						
<b>担当教員の実務経験</b>	<p>●担当教員(非常勤講師)職種:ピアノ講師 職歴:10年以上                  ピアノ講師としての実務経験を、学生が保育の現場に必要なピアノ演奏技術の習得に活かす。</p>						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
<b>授業参加態度</b>	事前事後学習として、毎回与えられた課題を練習し(毎日アンケートへの入力含む)、C-learning のドリル演習問題にも取り組んで授業に臨む。	20			
<b>レポート/作品</b>	課題曲の動画提出2回(各5点)			10	
<b>発表</b>	複数担当教員の前で課題曲1曲を演奏し、読譜力、曲の難易度と表現力で採点する。担当教員が採点した点数の平均点を評価(50点)。			50	
<b>小テスト</b>					
<b>試験</b>					

その他	課題曲の進度により評価をする。初心者でもバイエル 77 番以上を弾くことを目指す。			20
<b>合計</b>			20	80
<b>回数</b>		<b>授業計画</b>		
1	<b>授業内容</b>	授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当別:教材の選定と課題提示		
	<b>事前・事後学習</b>	各自与えられた課題を練習し、C-learning の毎日アンケートに記録する。		
2	<b>授業内容</b>	音符と休符の種類(バイエル 10～30 番台)		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 10～30 番台)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル①を解く。		
3	<b>授業内容</b>	音符と奏法 リズムと拍子(バイエル 10～30 番台)		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 30～50 番台)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル②を解く。		
4	<b>授業内容</b>	運指について 両手の奏法(バイエル 30～50 番台)		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 40～50 番台)を練習し、動画の撮影をする。ドリル③を解く。		
5	<b>授業内容</b>	ハ長調の理解と各曲の習得① 楽譜の確認(バイエル 40～50 番台)【動画提出】		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 40～50 番台)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル④を解く。		
6	<b>授業内容</b>	ハ長調の理解と各曲の習得② リズムと拍子、和音(バイエル 40 番～50 番台)		
	<b>事前・事後学習</b>	ハ長調の左手伴奏パターンを練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル⑤を解く。		
7	<b>授業内容</b>	これまでの振り返りと今後の計画		
	<b>事前・事後学習</b>	各自課題で指導を受けた注意点を意識して練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル⑥を解く。		
8	<b>授業内容</b>	長調と短調(バイエル 50～60 番台)		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 60～70 番台)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル⑦を解く。		
9	<b>授業内容</b>	調性について 各曲の習得(バイエル 60～70 番台、他) ト長調		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 70 番台)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル⑧を解く。		
10	<b>授業内容</b>	各曲の習得(バイエル 70 番台) 調号について①		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 70 番台)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル⑨を解く。		
11	<b>授業内容</b>	各曲の習得(バイエル 70 番台) 調号について②		
	<b>事前・事後学習</b>	課題曲(バイエル 77 番以上)を練習し、毎日アンケートに記録する。ドリル⑩を解く。		
12	<b>授業内容</b>	実技発表の課題曲の指導① 楽譜の確認(バイエル 77 番以上)		
	<b>事前・事後学習</b>	各自、発表曲の完成を目指して動画の撮影をする。ドリル⑪を解く。		
13	<b>授業内容</b>	実技発表の課題曲の指導②【動画提出】		
	<b>事前・事後学習</b>	発表曲の完成を目指して練習し、毎日アンケートに記録する。		
14	<b>授業内容</b>	実技発表と講評		
	<b>事前・事後学習</b>	実技発表の振り返りをし、新たな課題曲を練習し、毎日アンケートに記録する。		
15	<b>授業内容</b>	今後の計画立案とその指導		
	<b>事前・事後学習</b>	休業中の課題について練習計画を立て、継続したピアノの練習をし、後期のピアノ演奏法Ⅱに繋げていく。		